

<第4515回>

目的地：雲ノ平（北アルプス）

担当者：西村

実施日：2024年8月12日（月）～16日（金）

形式：小屋泊縦走

費用：¥68,000-（山小屋代 42,000 円、交通費 22,490 円 他）

参加者：3名

行程：

12日（天気：晴）

阪急三番街バス乗り場(21:40)⇒（高速バス）⇒

13日（天気：曇りのち晴）

⇒(5:42)富山駅(6:10)⇒(直通バス)⇒(8:10)折立(8:40)→五光岩ベンチ(12:10)→(13:10)太郎平小屋[泊]

14日（天気：曇り）

太郎平小屋(5:40)→(7:05)薬師沢ベンチ→(8:05)薬師沢小屋(8:30)→アラスカ庭園(11:00)→奥日本庭園(11:50)→(12:30)雲ノ平山荘[泊]

15日（天気：曇りのち晴）

雲ノ平山荘(5:40)→スイス庭園(6:05)→(7:20)祖父岳(7:35)→岩苔乗越(8:15)→黒部川水源地標(9:45)→(10:15)三俣山荘(10:40)→(11:40)三俣蓮華岳(12:10)→丸山(12:40)→(13:40)双六岳(14:00)→(14:40)双六小屋[泊]

16日（天気：晴）

双六小屋(4:40)→(5:30)くろゆりベンチ→(6:00)弓折乗越(6:15)→(6:50)鏡平山荘(7:00)→小池新道登山口(9:15)→(9:30)ワサビ平小屋(10:15)→笠新道登山口(10:30)→(11:15)新穂高温泉・中崎山荘奥飛驒の湯→新穂高温泉バス停(13:47)⇒(15:31)高山バスセンター・JR高山駅(16:33)⇒JR岐阜駅経由大阪[解散]

感想：

北アルプスの最奥部、標高二千六百メートル付近に広がる溶岩台地「雲ノ平」に行ってきました。最初の難関は定員50名の雲ノ平山荘の予約です。予約開始時刻を待ち構えてクリックしたところ運良く取れましたが、手続きを終えて再度見ると満室になっていました。同様に前後に宿泊する太郎平小屋・双六小屋そして高速バスの予約も混んでいましたが、何とかクリア。コロナ後は山小屋も予約制となり、激混みがなく快適になりましたが、その分予約が最初の関門です。

登山初日は、折立から太郎平小屋までの行程です。登り始めの傾斜がきついものの、途中からは傾斜も緩くなり、快適な登山道が続きます。その日は、太郎平小屋に宿泊です。

翌日は、薬師沢小屋まで約400メートル下り、そこから雲ノ平山荘まで約600メートル登ります。薬師沢小屋から雲ノ平へは「激登りルート」。両手も使いよじ登る感じで、ひたすら登ります。長く厳しい急登を乗り越えると、アラスカ庭園と呼ばれる高原が広がり心も和みます。北アルプスの山々に囲まれた高原に佇む、雲ノ平山荘が今夜の宿です。

3日目は、雲ノ平山荘から祖父岳に登りました。祖父岳山頂からは、雲ノ平を取り囲む山々を一望できるのですが、残念ながら雲も多く一部しか見られませんでした。そして岩苔乗越から長

く続く谷を下り、黒部川水源地標に到着。そこから登りとなり、三俣山荘を經由し、この例会の最高峰である三俣蓮華岳に登頂。山頂に着く頃には青空が広がり、雄大な山々の景色を堪能し暫し休憩。その後は丸山・双六岳を經由し、双六小屋に泊りました。双六小屋は水が豊富で部屋も広く快適です。

最終日は夜明け前に双六小屋を出発。丁度明るくなってきたころ展望が開け、向かい側に雄大な山々が現れました。槍ヶ岳から穂高連峰・焼岳・乗鞍岳まで、雲に遮られることなく一望できました。このルートは何度か通っていますが、これほど素晴らしい景色を見たのは初めてです。強く記憶に残る山行となりました。